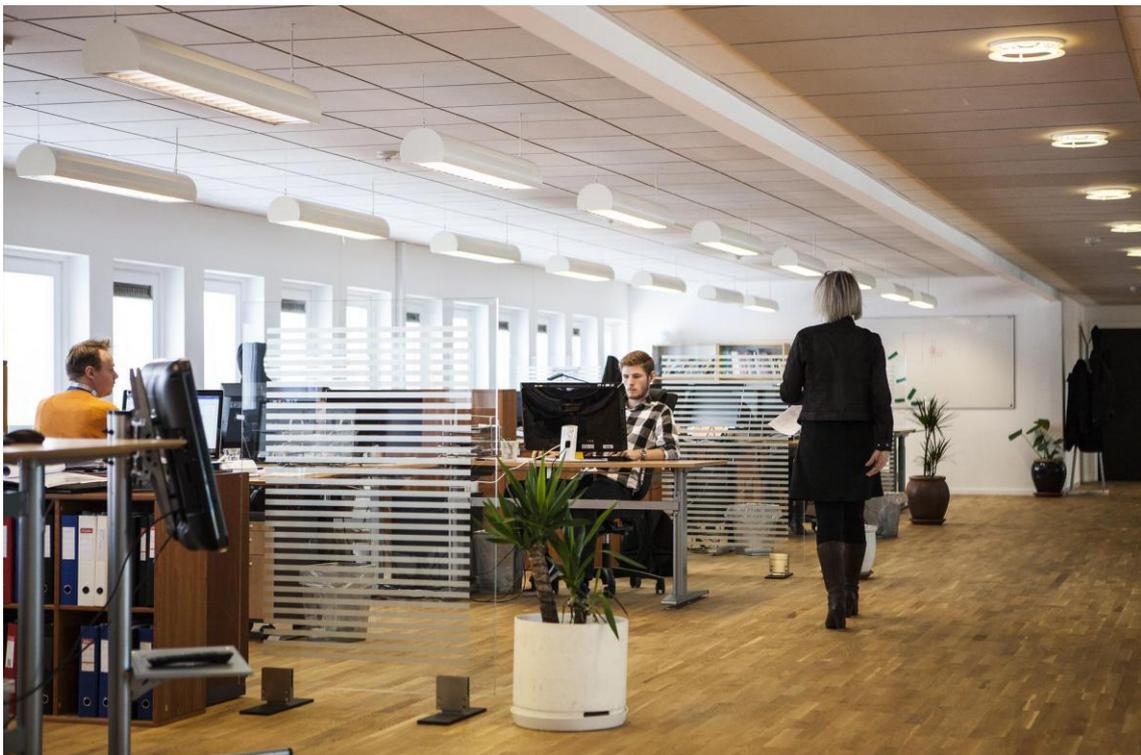


■ 就活生は社会人となりやがて責任者となる

修正： 2025.01.01

投稿： 2025.01.01



● 就活生はやがて社会人となり責任者となる①

科学技術系のニュースを見る度に、

技術の進歩の速さを感じてしまいます。
私がこの世を去るときは、もう、
今の私の常識は通用しないんでしょうね…。

//-----

さてさて、本題ですが、
入社1年目の新入社員から、
**「入社できたはいいが、
イメージと異なっていて辛い…」**
という相談がありました。

良い大学、良い会社、という流れで、
有名一流企業(広告代理店)に入社したものの、
その会社の社風が予想以上に体育会系で、

入社してから**残業**ばかりで、
自分の時間を大切にしたい自分としては辛い、
という内容です。

退職も考えているものの、せっかく入社した会社を
早々に退職するというのもったいなく、
入社3年は粘ろうか、それとも第二新卒に懸けてみるか、
どうしようかと言ったところです。

世の中は**綺麗**に見えるように作られており、
実際に入ってみて**現実**を知ってしまった、
ということはよくある話です。

この理想と現実の差がギャップです。つまり、
「ギャップ=理想-現実」であり、
このギャップが**ショック**という形で還ってきます。

華やかなイメージは作られたものであり、
現実には映画やドラマのようにいきません。

そして、それが良いとか悪いとかではなく、
そもそも世の中そういうものなのだ、ということです。

(続)

//=====//

●就活生はやがて社会人となり責任者となる②

「上司は仕事できてすごいな～(° o°)」

と、部下は上司をすごいと思込む、
ものかもしれませんが、それは錯覚です。

特に新卒で入社した際は、
わずか1年先2年先の先輩に対しても、
「先輩は仕事できてすごいな～(° o°)」
なんて思ったことがあるかと思いますが、

それは単にその会社の作業に慣れただけ、です。
自分も同様に作業ができるようになれば、つまり、
慣れてしまえばなんてことはありません。

自動車教習所で「教官すげ～(° o°)」
ってなるのと同じことです。

実を言うと、人は自分がmaxとなるように
マネジメントする癖があります。ようは、自分で自由に
職務の割り当てをしたり、評価基準を調整できるのだから、
いくらでも自分を有能に見せることができる、ということです。

ゆえに、部下から上司を見ると**超有能**のように見えますが、
実はその上司は、より上の上司から**低評価**されていたりします。

そもそも、出世して役職が高くなったからと言って、
それでその人の知能まで高くなるわけではないのです。
上司になったのも、「ただそこにいたから」だとか、
「他にやる奴がないから」だとか、そういう理由です。

そして、**それが良いとか悪いとかではなく、**
そもそも世の中そういうものなのだ、ということです。

(続)

//=====//

●就活生はやがて社会人となり責任者となる③

短所はできる限り潰しておいた方が身のためです。

「チームは、各メンバーの短所を無力化し、
各メンバーの長所を活かすためにある」

というそれはそうですが、ただそれは**理想**であって、
感情のある人間にとって、それはなかなか難しい話です。

なぜなら、人間とは、

「他人の短所が気になって気になって仕方がない」

ものだからです。ゆえに、
短所があまりにも顕著な人は、
そもそも人から避けられます。

もし、「長所を伸ばすことが大切だ！」

ということを真に受けて、短所を無視して、
長所を伸ばすことだけに専念しているのであれば、
短所がやたら目立ってしまい、**四面楚歌**になりかねません。

長所を伸ばすことに専念していいのはプロだけで、
人に使われてなんぼの状態の人なのであれば、
短所を徹底して減らすことが大切です。なぜなら、
短所が大きいと人から使ってもらえないからです。

短所を減らすのは人に使われるためにすることであり、逆に、
長所を磨くのは人から必要とされるためにことです。

しかしながら、短所を減らすということは、
努力して他の人と同じようになることであり、
「自分は違うんだ！」とアピールしたい人からすると、
避けたい努力、ということになります。

とは言っても、自分の短所を受け入れて、
長所だけを見てくれる人は、そう都合よくは現れません。

長所を伸ばすことで、
人より頭一つ抜けようとしているのかもしれませんが、
短所のせいでそれが**許されない**のだ、
ということに気づかなければなりません。

そして、**それが良いとか悪いとかではなく、
そもそも世の中そういうものなのだ**、ということです。

(完)

//=====//

Web サイト :

データアクションサービス —データからアクションを起こす—

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)